

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2673300071
法人名	社会福祉法人 はしうど福祉会
事業所名	高齢者グループホーム いわきの里
所在地	〒627-0224 京都府京丹後市丹後町岩木487番地 (電話) 0772-75-2496

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年3月11日	評価確定日	平成22年4月22日

## 【情報提供票より】(平成22年2月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	8.1 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( )	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 15万円 ) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1日あたり 850円			

### (4) 利用者の概要( 2 月 28 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.6 歳	最低	80 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	京丹後市立弥栄病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京丹後市丹後町岩木地区の、広々とした農村風景がひろがるところに建っている和風住宅がホームである。地域との関係は良好で、前に畑、近くにお地藏さま、ゲートボール場などがあり、近所の人も気軽に訪れる。氏神さまの祭りの宿、地区の敬老会やそば花祭りへの参加など、利用者の地域住民としての生活ができています。家族との関係も良好で、「サービスの質を落とさないように家族ができることは協力します」との申し出を受けている。今年度の新しい取り組みは2つある。第1は、管理者が認知症介護実践者リーダー研修に参加した経験を活かし、全職員を小規模多機能施設あきばの里に派遣し、その利用者とかかわり、紹介シートを作成という取組の結果、自ホームの利用者とかかわり方が不十分であることを認識し、職員自身の意欲につながった。第2は、職員と利用者のかかわり方を職員同士が相互評価する取組である。いずれもその成果が期待される。利用者は重度化が進んでいるものの、自由な明るい雰囲気のホーム内で、わがままの言える生活を楽しまれている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の評価は自分たちのサービスを見直す機会になったと受け止めている。東京センター方式を使うことにより、利用者との話や観察のなかで介護計画を立てるようになったことが大きな改善点である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員でとりくみ、いろいろ意見交換している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	併設のグループホームと一緒に開催しており、利用者、家族、区長、民生委員、京丹後市高齢介護課職員がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。事業所への理解と協力、認知症への理解や徘徊などへの対応策、地域の防災などの問題等、活発な意見交換がなされている。夜間想定消防訓練に地域からの協力が得られるなどの改善がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族食事を4月と10月に開催し、5~6家族が参加されている。お互いに交流し、和やかな雰囲気である。チューリップ見物、大型スーパーメインへの買い物、ホームでのクリスマス会や夕涼み会等にも家族の参加がある。家族は年末にはホームの大掃除をしている。家族の意見として、グループホームの生活に満足しているため、サービスが低下しないように家族ができることは協力したいと言われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は畑作業や散歩、お地藏さんへのお参り、スーパーへの買い物のときなどに近所の人とおしゃべりしている。また隔週に移動スーパーのなんでも屋がくるので近くの人と一緒に買い物している。岩木地区の敬老会や老人会の月見、地域のそば花祭りなどに参加したり、氏神さまの秋祭りの宿を引き受けている。小学生や中学生、高校生の来訪もあり、高校生は新体操を見せてくれる。利用者の友だちや近所の人がいっぱい遊びに来る。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげている	「①家庭的で楽しい雰囲気づくり、②入居者の人としての尊厳、プライバシーの重視、③残された力を役割に、④寄り添う介護の実践、⑤福祉は心」の5点をグループホームの理念として掲げており、重要事項説明書に明記し、ホーム内に掲示している。家族には契約時に説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者初め職員は常に理念に立ち返って仕事をするようにしており、折りに触れ、理念の理解を図っている。職員は自分の言葉で理念を語る事ができる。職員が笑顔でないと利用者も笑顔になれないと、朝ミーティングでは利用者のプラス面を見つけて話題にし、それをみんなで喜んで、仕事に入るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい ホームは孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	畑作業や散歩、お地藏さんへのお参り、スーパーへの買い物等、近所の人とおしゃべりしている。隔週にくる移動スーパーのなんでも屋での買い物の際も近所の人との交流の機会である。岩木地区の敬老会や老人会の月見、地域のそば祭りなどに参加したり、氏神さまの秋祭りの宿を引き受けている。小学生や中学生、高校生の来訪もあり、高校生は新体操を見せてくれる。利用者の友だちや近所の人がいつも遊びに来る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員で取り組み、意見交換している。昨年の評価は自分たちのサービスを見直す機会になったと受け止めている。東京センター方式を使うことにより、利用者との話や観察のなかで介護計画を立てるようになったことが大きな改善点である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能施設いわきの里と一緒に開催しており、利用者、家族、区長、民生委員、京丹後市高齢介護課職員がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。事業所への理解と協力、認知症への理解や徘徊などへの対応策、地域の防災などの問題を、活発な意見交換がなされている。夜間想定消防訓練に地域からの協力が得られるなどの改善がある。		

京都府 高齢者グループホーム いわきの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 ホームは、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京丹後市の担当職員とは常に連携している。京丹後市が開催する認知症サポーター研修の講師を引き受けており、職員も認知症理解のための寸劇に出演している。		
<b>4.理念を实践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真をたくさん掲載した広報誌『いわきの里』を毎月発行し、家族に送付している。行事の際などに撮った写真は家族にあげており、アルバムはホーム内に置いて、いつも見られるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族食事を4月と10月に開催し、教家族が参加されている。お互いに交流し、和やかな雰囲気である。チューリップ見物、大型スーパーマインへの買い物、ホームでのクリスマス会や夕涼み会等にも家族の参加がある。家族は年末にはホームの大掃除をしている。家族の意見として、グループホームの生活に満足しているため、サービスが低下しないように家族ができることは協力したいと言われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として安易な異動はしない方針であり、今年度は1人の寿退職があったのみである。法人では職員のメンタル研修をしており、管理者も職員の話に耳を傾けるようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師との契約や外部研修受講を勧めるなど、法人として職員研修には力を入れており、今年度は認知症、人権、メンタル、人間力、トランスなどのテーマで実施している。外部研修を受講した職員は報告書を書き、伝達研修をしている。資格取得は勉強会で支援され、資格手当でもある。職員は年2回、振り返りと次の目標を立て、上司と話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京丹後市が地域密着型事業所連絡会を組織しており、管理者と職員が毎月交替で交流・研修している。管理者だけでなく、職員も参加し、京丹後市内の他のグループホームを見学し、多くのことを学んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族には入居の前には必ず見学にきてもらっている。1週間くらい毎日ホームに来てから決めた人もいる。入居されてもすぐにはとけこめないのが、職員がそばについて、つきそいながら利用者の輪の中に入れてようにしている。馴染むまでは家族に毎日来てもらったり、電話の取次ぎをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の伝統的な食べ物や食べ方、丹後大震災や戦争の話など、職員は利用者からいろいろなことを学んでいる。利用者職員は一方的に介護するのではなく、共に生活する人であり、家族にはなれないが家族に近い存在で、いつも横にいてくれる人になりたいと、また職員は利用者のできることを探し出すのが仕事だと思っている。		
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居が決まると管理者兼ケアマネジャーが利用者や家族と面接し、アセスメントし、利用している介護サービス事業所や病院などの訪問もしている。介護のために大阪から長女がくるなどの介護状況、毎朝散歩などの生活習慣、グンゼ勤務、結婚後は帯の仕事などの生活歴、背広を縫えるほどの腕があるなどの情報を把握して、記録に残している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居日には担当職員と暫定の介護計画を立て、1～2カ月後に確定の介護計画を立てている。介護計画は利用者ごとに個別、具体的であり、生活の楽しみや利用者の役割も入っている。介護計画に生活歴等の情報の反映が不十分であり、職員のチームで介護計画を検討することが不十分である。	○	介護計画にはアセスメントで把握した利用者の情報を反映し、利用者ごとに個別で、生きがいのある生活ができるようなものにする、そのために、職員全員の知恵を集め、利用者や家族のアイデアも出るような取組をすることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のモニタリングは半年ごとに、各項目について①実行確認、②利用者・家族の意見・要望、③ニーズ充足度、④対応の4点でケアマネジャーが実施している。利用者の毎日の記録は介護計画の項目にそって書かれておらず、利用者の行動のみの記録となっている。ケース会議が開催され、記録が残されているが、職員の意見の反映が見えにくい。介護計画の見直しにあたっての再アセスメントの記録はない。	○	介護計画の見直しは会議などでケアマネジャーと職員の知恵を寄せ集めて実施し、その際の根拠となるのは毎日の利用者の生活記録なので、介護計画の項目にそって、ケアを実施したかどうか、実施した際の観察、拒否などがあつたときの考察などを記録に残すことが望まれる。また介護計画の見直しには再アセスメントの実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性と生かした柔軟な支援(ホーム及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○ホームの多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の美容は迎えに来てくれる地域の美容院を利用している人とチョキンズを利用している人がある。公民館での敬老会に参加したり、図書館から紙芝居を借りてきて利用者と楽しんだり、近くの大型スーパーマインへ買い物に行くなど、地域資源の利用をしている。併設の小規模多機能施設や法人特養とは行事を共に楽しんだり、研修をともにしたりしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診は家族が同行するが、職員が同行する場合もある。受診にあたってはホームでの情報をサマリーにして医師に見せている。歯科医は年2回往診してくれ、検診してくれる。認知症専門医は与謝の海病院と弥栄病院の医師に相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族にアンケートをとっている。ほとんどの家族は「グループホームと協力医のできる範囲での処置をして最期はグループホームでお願いしたい」という回答である。ホームとしての方針は明文化していないが、現在進行中の利用者には、ホームでできることとできないことを説明し、利用者や家族の意向を口頭で聴いている。職員もなじみの利用者の最期までお世話したいという思いを持っている。マニュアルはある。		
<b>IV. そのひとらしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は鍵をかけることができ、かける利用者もいる。トイレもかけることができる。トイレ誘導などの声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は4時ごろに起きる人から、7時過ぎまで寝ている人まであり、朝食はバラバラに食べている。夜は8時に寝る人もあり、夜のおつとめをして10時ごろに練る人もある。お風呂も入りたいの声があったときに対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いて1週間分の献立を立て、隔日に利用者と一緒に食材の買い物に行く。調理、盛り付け、配膳等、利用者と一緒に取り組んでいる。「いりごき」など、この地域独特のメニューもあり、利用者の食べ慣れた和風献立である。焼きそばやお好み焼きなどをホットプレートでつくることもある。毎月1回実施している外食は回転寿司が好評である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	広めの浴室に少し大きめの浴槽があり、安全のために蓋で狭くしたり、深いので底に敷いたりなどの工夫をするときもある。週3回を支援しており、夕方から夕食前までの時間帯で入浴している。夜間は希望がない。ゆず湯やしょうぶ湯なども楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生会のときにお祝いのプレゼンターやあいさつの役、お出かけのときにバスガイドの役など、利用者はその人らしい役割を果たしている。ホームでの家事や畑で野菜をつくるなどもしている。春祭り、花火見物、桃狩りや梨狩りなどの行事も楽しみだが、一番の楽しみは家族の面会と甘いお菓子を買ってきてみんなにあげて一緒に食べることである。		
25	61	○日常的な外出支援 ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩、買い物、お地蔵さんにお参りになど、出かけている。天の橋立のホテルでの観劇、但東町へチューリップ見物、離湖での花見、宮津の一宮神社への初詣、紅葉狩りなど、季節のお出かけもしている。利用者のふるさと訪問に取り組んでおり、近所の人に出会ってなつかしいおしゃべりになったり、ついでに近くのお墓参りもすませている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドア、裏口、併設の小規模多機能施設への出口等、すべて日中は施錠していない。居室からも外部へ出ることができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関して消火器、通報機、感知器、防火管理者、消防計画等を準備しており、避難訓練は消防署の参加や地域の人の参加もあり、夜間想定の実施も実施している。スプリンクラーは今年設置の予定である。食糧他必要なものの備蓄を準備している。非常災害時に地区の住民を受け入れることや地域住民への協力依頼などは話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一日の食事摂取量と水分摂取量の記録は残している。献立のカロリー値や栄養バランスについての点検はできていない。	○	利用者の体調に食事や水分は大きな影響をもつので、献立のカロリー値と栄養バランスの点検が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口に丸い植木鉢に三色スミレの花が咲いている。居間には掘りコタツのある和室と大きな台所がついている。和室には押入れがあり、床の間に掛け軸、碁盤、座布団など、台所には大きな冷蔵庫がある。布でつくった花咲爺さんの周りに大きな花が一杯咲いている、春らしいタペストリーが掛けてあり、利用者が一緒につくったものである。タオルでつくったかわいいベビー服の飾りや紋紙に色紙をかけたものなど、この地域らしい飾りが暖かい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間でベッド、洗面台、タンス、衣装掛け等が設置されている。利用者が持ち込んだタンス、テレビ、時計等もあり、寝具は利用者のものである。1室だけある和室には押入れがあり、ホームコタツ、座布団などが置かれている。夫の位牌、自分や家族のアルバム、化粧道具、編み物の道具、裁縫箱等、それまでの生活を思わせる道具がおいてある。		